

又も天候に禍ひされて

春蠶

悲觀の豫想

縣統計課の調査

六月十五日現在に於ける統計課調査の本年度春蠶豫想收繭高は百七十一萬七千九百五貫(内白繭三十三萬六百貫、黃繭百三十八萬七千三百五貫)にして前年收繭高百八十一萬七千六百二十貫に比し九萬九千七百十五貫即ち零割五分五厘の減少を示してゐる、而して以上の如く減收の豫想を見たるは桑園整理改植等に基く桑葉量の減少により掃立數量を控へたと、掃立後の氣候概して順調なりしも壯蠶期前後に至り冷濕となりし爲飼育に困難を來し一方桑葉の發育も亦良好でなかつたり尙多少の病蠶をも發生したるに因るものである、郡市別豫想收繭高及び前年收繭高との對比左の如し

郡市別	豫想收繭高		前年收繭高		前年ニ比シ増減(△印ハ減)
	白	黃	計	貫	
水戸	五九三	一、〇六四	一、六一七	一、三六〇	△ 二五七
東茨城	四〇、〇〇三	一九一、一一二	一三二、一一五	一三四、一三二	△ 三、〇一七
西茨城	二〇、三六〇	四三、八三〇	六四、一九〇	六七、五九七	△ 三、四〇七
那珂	二一、二五一	三八、八三七	六〇、〇八八	六三、一八二	△ 三、〇九四
久慈	九、九五三	四九、九五三	五九、九〇六	六一、四八一	△ 一、五七五
多賀	三、一三一	一、八九一	五、〇二二	五、〇六八	△ 四六

郡市別	豫想收繭高		前年收繭高		前年ニ比シ増減(△印ハ減)
	白	黃	計	貫	
廣島	一四、五七八	六八、二五七	八二、八三五	八八、二一五	△ 五、三三八
行方	一一、九五〇	六〇、九〇一	七二、八五一	七九、一三八	△ 六、二八七
新治	五四、三一六	一七八、四一一	二三二、七二七	二五三、八一七	△ 二一、〇九〇
筑波	六五、三六八	二一五、二八二	二八〇、六五〇	二八一、四八七	△ 一六、八三七
眞壁	二七、五八七	一九九、二六三	一二六、八五〇	二四三、七八〇	△ 一六、九三〇
結城	一一、七五一	一三三、六七二	一四五、四二三	一五二、九七八	△ 七、五五五
猿島	三、四六九	二〇二、七〇〇	二〇六、一六九	二二三、七二三	△ 一七、五五四
北馬	三二、三〇七	四一、三四八	七三、六五五	七七、四五七	△ 三、八〇二
合計	一四、〇二三	六〇、七八四	七四、八〇七	八四、二〇五	△ 九、三九八
合計	三三〇、六〇〇	一、三八七、三〇五	一、七一一、七九〇	一、八一七、六二〇	△ 九、九七一五

生産第廿六位

昭和九年度全國の總生産額調べが、此の程漸く出來上つて發表された、これによると我が茨城縣の生産總額は一億九千二百二十三萬九千九百九十四圓で全國の第二十六番目に位してゐる。

之を各種別に分類してみると農産物は九千五百一萬九千二百八圓で第七位、蠶絲では二千六百三十八萬二千五百五十六圓で六位、畜産は四百五十八萬九千二百十四圓で十五位、林産は六百十萬七十六圓で二十六位、水産は七百八十九萬九千二百一圓で二十位に落ちたが鐵産に於ては二千五百五十三萬五千三百九十二圓で第八位に頑張り、工産は五千八百四十八萬四千七百四十七圓で三十四位に下つた。

又これを一戸當にみると六百六十八圓、一人當は百二十四圓にしかならぬ、全國でも生産の少ない方で、大阪あたりは一戸二千百八十二圓、一人四百五十六圓、愛知は一戸千八百九十八圓一人三百七十九圓にもなつてゐる、工業の盛んな處は概して裕福のやうだ。